

テーマ: 「消費財」

16:00-16:05 振り返り

16:05-16:25 講演①「アフリカの最大市場ナイジェリアの食と文化」

Hidemi Consulting Ltd 代表(CEO) オビオラ 秀美

ナイジェリアでの在住歴20年を基に、生活とビジネスの両面から得た、食と文化における経験/知見を(隣のおばさんの様に)ざっくばらんにお話したいと思えます。ナイジェリア人が、どのように、、、物事をみて、感じて、考えて、食するか。それらが、どのように、、、市場動向となって経済効果を生むのか。この過程は、我々日本人には到底分かりづらいものですが、少しでも解像度を上げて解説し、ナイジェリア市場進出のヒントにして頂ければ幸いです。



16:25-16:45 講演②「サブサハラにおける日本企業のビジネス現場の一例 ~アフリカをもっと身近に!」

株式会社カネカ アフリカ駐在員事務所 所長 瀬古 裕

今回は弊社の頭髪商品用合成繊維Kanekalonのビジネスをご紹介、ビジネスの現場、アフリカでの日々の生活を通じて私が感じたことをご紹介いたします。学術的な説明はできませんが、アフリカに関心を持つ1人の普通サラリーマンの思いを披露させて下さい。聴講されている皆さまの中にはアフリカに関心を持つ学生の方、会社員の方、もしくはアフリカ進出を考えている経営者や幹部社員の方々がいらっしゃるかもしれません。拙い内容ではありますが、私の話が一步前進する一助となれば幸いです。



16:45-17:05 講演③「アフリカで村人とともにものづくりするー文化人類学者が見た輸出向け『かごバッグ』の生産現場」

北海学園大学 経済学部 准教授 牛久 晴香

フェアトレードや倫理的消費の高まりにより、アフリカの伝統技術とモダンなデザインとを融合させ、「先進国」向けの商品を作成・販売する試みが増えています。しかし、当然のことながら、日本とアフリカのものづくりの基準は同じではありません。本講演ではガーナ北部のボルガバスケットの生産現場を事例に、関係者たちが異なる「当たり前」を突き合わせる過程で生じる問題やその乗り越え方を文化人類学者の視点からお話します。



17:05-17:25 講演④「エチオピア南部農村部の食文化:新作物の受容にかかわる一要素」

京都大学 アフリカ地域研究資料センター 特任研究員 下山 花

エチオピア南部の食文化について話題を提供します。エチオピアは、サハラ以南の国の中でナイジェリアに次いで人口の多い国です(約1.2億人)。人口を養うために農産物の増産を目指し、新しい作物の導入が試みられてきました。新作物/新品種の導入には、収量性などの栽培生産だけに着目するのではなく、包括的な視点が必要です。その一例として、1970年にエチオピア南部に導入されたライコムギを例に挙げ、現地の人びとの食に対するこだわりを考慮する重要性についてお話したいと思います。



17:25-17:55 質疑応答

テーマ: 「公衆衛生・ヘルスケア」

16:00-16:05 振り返り

16:05-16:25 講演①「LIXILのSATOソーシャルビジネスによる衛生市場の創出」

株式会社LIXIL コーポレートレスポンスビリティ室 室長 長島 洋子

LIXILは「グローバルな衛生課題の解決」を優先取り組み分野に位置づけ、SATOソーシャルビジネスを基軸に革新的で低価格なトイレや手洗いステーションを提供することにより、2025年までに1億人の生活の質の向上に貢献することを目指しています。地域のニーズに根差した製品開発や、現地での雇用創出、国際機関とのパートナーシップ、欧州・中東・北アフリカ地域や日本のお客様、従業員とも連携したLIXILの取り組みを紹介します。



16:25-16:45 講演②「命を守る衛生事業開発」

サラヤ株式会社 海外事業本部 アフリカビジネス開発室 室長 北條 健生

戦後の衛生状態が悪い1952年に、赤痢対策として日本初の薬用石鹼液を発売したサラヤは、創業60周年を機にCSR企画「ウガンダ100万人の手洗いキャンペーン」を展開。一方で、世界で年間1600万人が死亡している院内感染対策をウガンダでの持続可能なビジネスとして展開すべく、2014年アルコール手指消毒剤の現地製造販売を開始。保健省、大学、NGO、JICA等、幅広い連携をもとに進める、感染管理人材育成とビジネス展開の現状を紹介します。



16:45-17:05 講演③「アフリカと水・衛生の価値」

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 原田 英典

水と衛生の実現は、サハラ以南アフリカにおける喫緊の課題の一つである。しかし、現実には携帯電話を持っていてもトイレを持っていないことは珍しくなく、援助でトイレや井戸を導入してもしばらくして放棄される例は枚挙にいとまがない。人々にとって、社会にとって、水と衛生にはどんな価値があるのだろうか。都市と農村のそれぞれにおいて、健康と資源の二つの価値に注目しつつ、水と衛生の価値をもう一度考え直すことで、水と衛生の実現を目指す方策を検討する。



17:05-17:25 講演④「ICT活用で開くアフリカの母子保健支援」

広島大学・副学長(国際広報担当)/医系科学研究科国際保健看護学 教授 新福 洋子

持続可能な開発目標ゴール3の第1ターゲットは、「2030年までに妊産婦死亡率を出産10万対70未満に引き下げる」であるが、サブサハラアフリカ地域では、以前として妊産婦死亡率が高く、2019年の世界保健機関レポートでも542と報告されている。これまでタンザニアをフィールドに、2種類のスマートフォンアプリを開発し、助産師と妊婦の知識をアップデートし、ソーシャルメディアを用いたネットワーク化をすることで、医療アクセスの向上、妊産婦ケアの改善を目指している。



17:25-17:55 質疑応答